

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>平成 30 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：先進医療導入された CAD/CAM 冠と皮膚科連携</p>
<p>2. 申請者名：一般社団法人北海道歯科医師会</p>
<p>3. 実施組織：一般社団法人北海道歯科医師会</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>近年、増加する金属アレルギーは、その予備軍も含め 1,000 万人（日本人の 12 人に 1 人）の存在が推測されている。先進医療の保険導入として平成 26 年度診療報酬改定より保険収載された CAD/CAM 冠の適応が、平成 28 年度診療報酬改定で大白歯まで拡大されたが、その適応条件に、医科の保険医療機関等の医師との連携の上で、診療情報提供に基づく場合に限ると明記され、皮膚科・内科等との医療連携が必須となった。このことから皮膚科・内科等との医療連携し、金属アレルギー疾患のある患者に対する保険収載された補綴処置の周知、金属アレルギー疾患のある患者の口腔環境の改善や咀嚼能力向上を目的に医科歯科連携講習会および歯科医療従事者研修会を実施した。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>歯科関係団体として北海道歯科衛生士会、北海道歯科技工士会から、アレルギー領域の専門医を北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学から、CAD/CAM 冠の補綴専門医を北海道大学歯学部、北海道医療大学歯学部からそれぞれ招き医科歯科連携協議会を開催し、金属アレルギー患者の保険収載された補綴処置（CAD/CAM 冠）に関し、歯科および皮膚科の立場からの情報提供、金属アレルギー患者の受診状況や診療情報提供状況の実態についての情報交換等を行い情報の共有を図るとともに事業連携について協議した。また、金属アレルギー疾患と CAD/CAM 冠に関わる医師・歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の学術的な相互理解を深め、医科歯科の医療連携を推進すべく、金属アレルギー疾患のある患者の口腔環境の改善や咀嚼能力向上のため医科歯科連携の推進を目的とした医科歯科連携講習会を開催した。また、歯科医師および歯科衛生士のアレルギーの基礎知識習得を目的に、アレルギー領域の専門医による歯科医療従事者研修会を開催した。</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）：</p> <p>アレルギー領域の専門医を北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学から、CAD/CAM 冠の補綴専門医を北海道大学歯学部、北海道医療大学歯学部から招き、歯科医師会・歯科衛生士会・歯科技工士会役員との連携協議会を開催した。皮膚科専門医からは歯科治療で使用される金属についてなど、歯科側からはパッチテストの実施状況についてなど双方から質問があり、活発な協議がなされた。大学病院に勤務されている専門医以外の地域で活躍されている皮膚科専門医に対しての周知活動の徹底の必要性を強く感じさせられた。</p> <p>金属アレルギー疾患のある患者の口腔環境の改善や咀嚼能力向上のため医科歯科連携の推進を目的に、医科歯科連携講習会を開催し 55 名の出席があった。服部正巳 愛知学院大学歯学部客員教授を講師に招き「金属アレルギーの診断と治療の最前線-メタルフリー歯科治療-」と題し、金属アレルギー患者に対する歯科用金属除去療法やメタルフリー治療などについて、多くの症例を基に講演いただき、活発な質疑応答がなされるなど大変有意義な講習会となった。</p> <p>また、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士のアレルギーの基礎知識習得に関して歯科医療従事者研修会を開催し 95 名の歯科医療従事者の出席があった。菅 裕司 札幌医科大学医学部皮膚科学講座助教、北川 善政 北海道大学大学院歯学研究院 口腔診断内科学教室教授、舞田 健夫 北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系高度先進補綴学分野教授を講師に招き、講演Ⅰは『歯科金属アレルギーと皮膚疾患』と題し皮膚科医の立場から、講演Ⅱは『歯科金属アレルギーと口腔粘膜および全身疾患』と題し、講演Ⅲは『高強度硬質レジンプリッジ臨床応用時の留意点』と題しそれぞれ歯科医の立場から講演いただき、いずれの講演とも活発な質疑応答がなされ、大変有意義な研修会となった。</p> <p>今般、都道府県にアレルギー疾患医療拠点病院の選定が求められるなど、アレルギー疾患医療提供体制の整備、アレルギー疾患医療全体の質の向上が進められており、金属アレルギーを含めたアレルギー疾患全般に関する知識の習得と、診療に係る複数の診療科が連携して診断、治療、管理を行なえる体制を構築するためにも、引き続き周知活動等が必要と考える。</p>